様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２１ 日現在

機関番号：３４３０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2015～2016
課題番号：１５Ｈ０６２９５

研究課題名（和文）キリスト教聖書の翻訳にみられる現地語語彙の選択とローカル社会の再編

研究課題名（英文）Selection of local terms and transformation of local society through the Christian Bible translation

研究代表者
田崎　郁子（Tazaki, Ikuko）

大谷大学・文学部・研究員

研究者番号：００７６０７１１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、キリスト教受容を経験した東南アジア大陸部山地のマイノリティを事例に、聖書の翻訳や伝道における現地語の強調、教会の言葉遣いとそれによるローカル社会の再編過程について、人類学的な手法を用いて調査を行った。具体的には、植民地期のビルマに始まりタイへと拡大していくプロテスタント・キリスト教の宣教活動とカレンと呼ばれる人々の日常生活との相互作用に着目した。2回にわたるタイとミャンマーでのフィールド調査と文献収集を行い、成果を国内・国際学会で発表し、現在それを投稿論文として執筆中である。

研究成果の概要（英文）：I investigated interaction between Protestant missionary's activities from colonial Burma to Thailand and transformation of local society from the anthropological point of view. Especially I focused on selection of local terms through the Christian Bible translation, highlighted uses of them in Karen people's daily-lives and its impact to transformation of local society under the influence of Christianity. I conducted field research and collected documents in Thailand and Myanmar twice, had presentations on Japanese and international societies, and now am writing papers to publish.

研究分野：文化人類学、地域研究、キリスト教人類学

キーワード：キリスト教人類学　プロテスタント・キリスト教　カレン　聖書の翻訳　日常生活　タイ　ミャンマー

１．研究開始当初の背景

東南アジア大陸部では、欧米の植民地主義の拡大とともに 19 世紀以降キリスト教宣教が進み、キリスト教は特に国民国家を形成する主要民族とは異なるマイノリティの社会において重要な要素となってきた。

カレンと呼ばれる人々は、主にタイとミャンマーに居住する。マイノリティの中でも比較的多くの人口を占め、植民地統治やその後の国民国家化の過程を通して、国家の中でのマイノリティの位置づけを考える際に重要な存在である。カレンの間では 1828 年ビルマで最初の受洗者が登場して以降、急速にキリスト教が布教し、タイとビルマを中心とする地域のプロテスタント・キリスト教の伝道や教会活動を牽引してきた。他の民族への伝道を主に担ってきたのもカレンである。

こういった事情を反映し、カレンのキリスト教受容に関してはこれまでにも多くの研究がなされている。にも拘わらずそのほとんどは、カレンという民族のアイデンティティ形成あるいは保持との関連でキリスト教受容を論じてきた。同様に、東南アジアにおけるマイノリティのキリスト教宣教や改宗に関する人類学的先行研究でも、そのほとんどが改宗と民族境界・エスニシティに着目し、キリスト教受容と信仰の変容を分析してきた。こういった研究はまずキリスト教を民族のナショナリズム形成の要因として捉えたために、その他の視点、例えばキリスト教を受容した人々が、実際にどのように生活を再編しながら暮らしているのか、という視点は抜け落ちていた。しかしアフリカなど他地域の研究では、キリスト教実践が生活スタイルや社会のあり方そのものをも再編してきたことが指摘されており、こういった視点抜きに、キリスト教がもたらしたものを論じることはできない。

プロテスタントは個人による内面の信仰を主張するため、土着の言語や表現を重んじ、聖書の現地語翻訳や現地語による福音伝道に熱心である。翻訳によって福音メッセージは土着の信仰の中に埋め込まれ、新しい言説や解釈が形成される。そのため、プロテスタントの受容に際しては、言語のもつ作用に着目することが重要である。また、研究代表者の博士論文では、キリスト教が人々の日常生活を規定したり、逆にローカルな日常生活の在り方が教会実践に影響を与えることを、労働規範や援助・慈善の概念の変容を軸に論じている。そこでは、現在の人々の日常生活を形成・規定するキリスト教に特有の言語の作用や概念に着目することの重要性が示されている。

２．研究の目的

本研究の目的は、東南アジア大陸部におけるキリスト教の受容とローカルなコミュニティの再編について、タイとミャンマーに居住するプロテスタント派のカレン民族の事例から、調査・考察することである。特にプロテスタントに特有の現地語の強調と聖書翻訳の過程で、語彙の選択がどのように行われたのか、また選択され教会活動の中で強調されている言葉遣いがローカルな社会に及ぼす影響に着目する。そして、キリスト教の受容が、先行研究で指摘されてきた民族アイデンティティの強化や近代的主体的個人の形成とは異なる方法で、ローカル社会の日常生活を再編する可能性について論じる。

本研究は学位申請論文の延長線上にあり、労働規範や援助・慈善にまつわる概念という準拠枠を用いて設定した博士論文の課題を、より広い視野の比較研究へと導くことを意図した。

３．研究の方法

以下に示すような文献調査とフィールド調査を行った。

（1）聖書の現地語翻訳と語彙の選択の過程に関する研究（文献調査）

（2）選択された語彙の教会を通した強調と日常生活再編の相互作用に関する研究（フィールド調査）

タイの渡航調査では、カレンの神学教育で用いられる教会の言葉についての現地調査を行ったほか、宣教拠点となった村落でキリスト教の語彙が日常生活の中でどのように用いられているのか、信徒が非クリスチャンの村で行う宣教活動の際に用いる言葉や実践はどのようなものなのか、に着目してフィールド調査を行った。さらに 1950 年代以降の米人バプテスト派宣教師らの北タイでの宣教活動に関する月刊誌 *Thailand Tatler* や関連資料をパヤップ大学アーカイブで収集した。ミャンマーでは、カレン語聖書の翻訳に関する文献収集と聞き取りを行った。

また本研究で収集したデータや事例を活用して、ミャンマーとタイの比較対照も今後行う予定である。

４．研究成果

（1）カレンの宗教実践と社会経済関係との相互作用

博士論文では、タイのカレンを事例に、宣教活動とキリスト教受容の影響を受けながら、同時期に大きな社会経済的な変化を経験してきた信徒の日常生活と社会変容について考察した。そして、キリスト教受容が、先行研究で論じられてきたような民族アイデンティティの強化や経済合理的個人の形成とは別の方法で、ローカル社会の日常生活を根本から変えたと論じた。

具体的には教会のみならず生産労働、家事労働、リーダーシップなど異なる領域がキリ

スト教的価値観に結び付けられて規範を形成していること、また、社会関係を重視した労働への取り組みや、教会活動との兼ね合いで決定する労働分業のあり方を示した。さらに、キリスト教実践と慈善や贈与の関係を示すことで、キリスト教化が社会に埋め込まれたセルフから脱社会化した合理的個人を形成するという近代化論に対し、経済合理性をもたらす一方でコミュニティの共同性を強化する内向的発展という規範を形成するという別のあり方を示した。これによって、タイ北部山地において、キリスト教受容と生業活動が相互に規定しあい社会を再編してきた過程を描き出した。

（2）プロテスタント・キリスト教の宣教活動と男女の役割分業の再編

タイのカレンを事例に、白人宣教師らによる宣教活動がローカル社会の男女の役割分業に与えた影響を考察した。特に、①宣教活動の中で女性の役割や労働がどのように捉えられてきたのか、②その影響下でローカルな男女の役割分業がどう再編してきたのか、に着目し、フィールドワークと宣教師の資料を分析した。そして、生産労働と再生産労働、ジェンダー関係の再構築を通して、従来伝統的な儀礼実践によって自己を家族や村社会の中に位置づけると論じられてきたカレンの人々が、キリスト教受容に伴い労働と教会活動によって自己を位置づけるようになった過程について考察した。

（3）キリスト教受容とローカルな心的概念の再編

本研究を通して、カレンの人間観や社会関係の基盤となる心的概念を構成する語彙が、キリスト教徒と非キリスト教徒で大きく異なること、また心的概念に関する語彙は人々の身体－精神観だけでなく、死生観から日常の行いまで様々な場面で言及され、人間観の基礎となっていることに気付いた。今後はこの点をさらに追及することで、キリスト教受容に伴うカレンの人間観、心身の状態、主体性の理解の再編について、明らかにできる可能性が示唆された。

（4）本研究の意義と将来的な見通し

本研究は将来的には、キリスト教受容がカレンを含む東南アジアのマイノリティにもたらした言語と社会の動態について考察することを射程としており、そのため特に、キリスト教聖書の現地語翻訳と特有な言葉遣いの形成過程と、それによるローカルな社会再編の動態に着目している。

多様に広がる民族の言語に対して、キリスト教受容を通したカレン語正書法の確立とそれに伴う社会の再編は、対外的にも対内的にも民族や社会の関係を再構築する契機となる。本研究で民族や宗教、言語の多様性の著しい東南アジアで言語と社会の動態に光を当てることは、マイノリティの人々が国家や世界宗教とどのように対峙しているのかの一端を明らかにすると考える。

これらの成果は、日本文化人類学会近畿地区博論発表会、「宗教と社会」学会、東南アジア学会関西例会で発表し、また 2017 年度に 2 つの国際学会でも発表する（個人発表とパネルでの発表が採択済み）。また現在投稿論文としても執筆中である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　2 件）

1. 田崎郁子、（印刷中）、「タイ北部カレン村落におけるイチゴ栽培の導入と労働形態、社会経済関係の再編」『東南アジア研究』、ページ数未定、査読有

2. 田崎郁子、2016、『タイ北部プロテスタント派カレン地域における宗教実践と社会経済関係の動態』、京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科、博士論文、PP. 1-221. 査読有

〔学会発表〕（計　5 件）

1. Tazaki Ikuko. Changing Karen’s idea of reciprocity and involution of community development under the influence of Protestantism and cash cropping in Thailand. SEASIA (Consortium for Southeast Asian Studies in Asia) 2017 Conference. Chulalongkorn University (Bangkok). Thailand. 16-17th, December. 2017.（パネル Transforming society of minority through Protestant Evangelism: Cases from the Karen's missionary in Burma and Thailand.のオーガナイザー兼発表者として、パネル採択済み）

2. Tazaki Ikuko. Dynamics of Religious Practice and Socio-economic Activities among the Protestant Karen in Northern Thailand. International Conference of Thai Studies 13. Chiang Mai University (Chiang Mai). Thailand. 15th-17th, July. 2017. （個人発表採択済み）

3. 田崎郁子、「プロテスタント・キリスト教の宣教活動と男女の役割分業の再編：タイ山地カレン民族を事例として」、東南アジア学会関西例会、於京都大学（京都府京都市）、2017 年 1 月 21 日

4. 田崎郁子、「タイ北部プロテスタント派カレン地域におけるマチュ概念の拡大と内向的発展」「宗教と社会」学会第 24 回学術大会、於上越教育大学（新潟県上越市）、2016 年 6 月 12 日、『「宗教と社会」学会第 24 回学術大会プログラム・要旨集』、PP21.

5. 田崎郁子、「タイ北部プロテスタント派カレン地域における宗教実践と社会経済関係の動態」、日本文化人類学会 2015 年度近畿地区博論・修論発表会、於神戸大学（兵庫県神戸市）、2016 年 3 月 20 日

６．研究組織

(1)研究代表者

田崎　郁子（TAZAKI Ikuko）
大谷大学・文学部・研究員
研究者番号：0076711